

Market Flash

発表日: 2019年10月9日(水)

やはり底打ち感がある

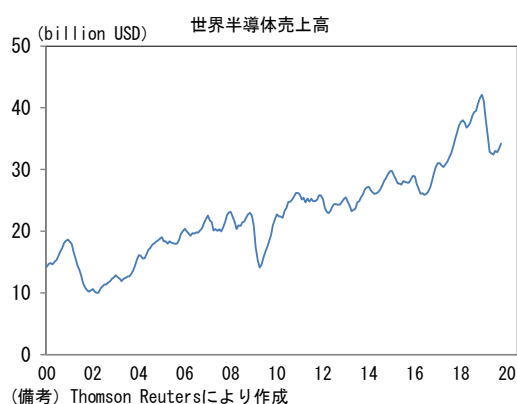
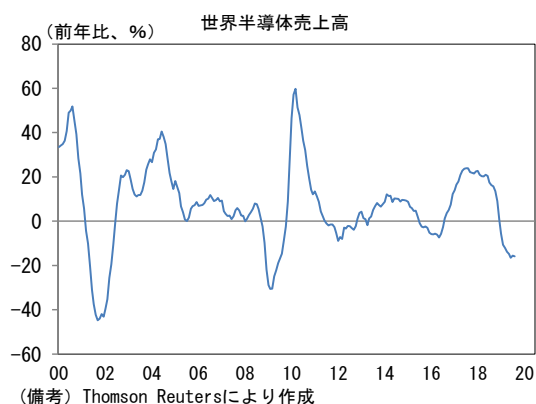
～世界半導体売上高 グローバル製造業PMI～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

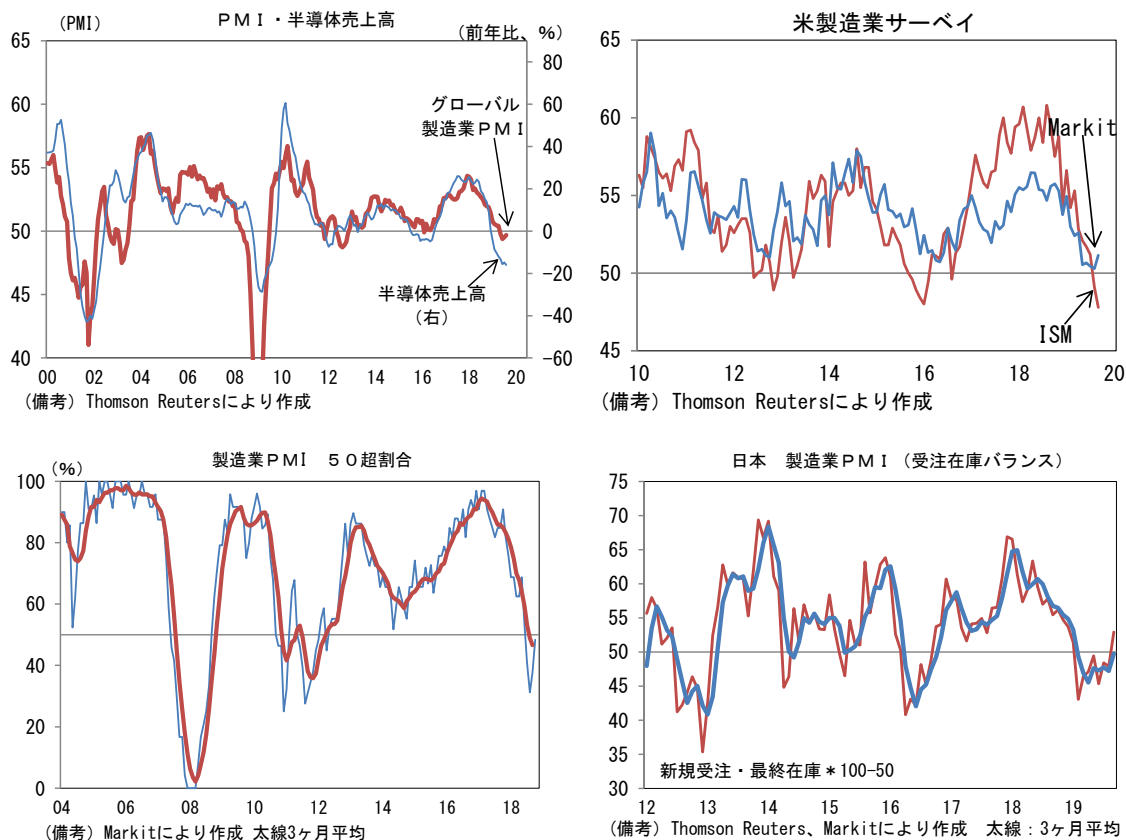
- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は23000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは米利下げ観測が支配的となる下、先行き12ヶ月は105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを2020年末まで維持するだろう。
- ・FEDは予防的利下げを実施後、更なる利下げを実施するだろう。

< #世界半導体売上 #グローバル製造業PMI #双方とも底打ち >

- ・8月の世界半導体売上高は前年比▲15.9%と小幅に下落幅拡大も、6月の▲16.5%からは持ち直した。前年比伸び率でみたシリコンサイクルは2017年末頃にピークを打った後、下向きのサイクルに突入し、ITバブル、リーマンショックに次ぐ落ち込みを記録したが、ここへ来て底打ち感がみられている。水準は342億ドル、前月比では+2.5%と下げ止まりが確認できる。



- ・世界半導体売上高の復調と整合的にグローバル製造業PMIは改善している。製造業サーベイとえば、驚くほど弱かった9月ISM製造業のインパクトが強く、ネガティブな印象がある一方、米国(Markit版)をはじめとする主要国の製造業PMIは持ち直し傾向にある(ドイツは例外的に弱く41.7。先進国で断トツの最下位)。9月グローバル製造業PMIは49.7へと8月から0.2pt上昇し、7月のボトムから累積0.4pt改善。また筆者が集計対象としている32ヶ国のうちPMIが50を上回った国の割合は7月をボトムに持ち直した。そうした下で日本の製造業PMIは依然として50を下回ったままだが、先行指標として有用な新規受注・在庫バランスが明確に持ち直すなど明るい兆候もみられている。
- ・筆者は8月以降、IT関連財の底打ちに伴う製造業サイクルの好転を根拠に日本株に強気な姿勢を示してきたが、世界半導体売上、製造業PMIの好転はこの見方をサポートする。



【株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は米国株安に追随して安寄り後、もみ合い。もともと、米国株 (▲1.2%) に比べて日経平均の下落率は1%未満と小幅。日経平均は21400円近傍で推移している (前引け)。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は下落。米中貿易協議の閣僚級会合を10日に控えるなか、両国が合意に至る可能性が低いとの見方から売り優勢。WTI原油は52.63ドル (+0.12ドル)。
- ・前日のG10通貨はGBPの弱さが目立ったほか大きな動きはみられなかった。GBPの弱さはジョンソン首相がメルケル首相に対して離脱を巡る合意は不可能だと述べたことが背景。USD/JPYは107前半へと小幅に水準を切り下げた。
- ・前日の米10年金利は1.529% (▲2.9bp) で引け。パウエル議長がT-Billの購入およびバランスシート再拡大に言及したことでカーブはブル・スティープ。欧州債市場 (10年) はドイツ (▲0.594%、▲1.9bp)、イタリア、スペインが金利低下。フランスが小幅に金利上昇。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。